

中田商事 たべねっと販売コーナー

J A直売所で物産展

県南部から64アイテム

【三重】中田商事(中田純一社長、三重県伊賀市)は12月21日、農業協同組合(JA)の直売所内に地産地消ネットワーク「たべねっとみえ」の販売コーナーを開設した。伊賀市内4カ所のコーナーでは最大規模で、尾鷲・熊野地区、伊勢・志摩地区など県南部で生産された64アイテムをそろえた。

伊賀市に同日オープンしたJAの直売所「とれたて市ひぞっこ」に、「たべねっとみえ・三重県物産展」と題した専用の販売コーナーを設置。常温コーナーはハチミツ、ミカンジュース、伊勢うどん、サンマの甘露煮など39アイテム、冷凍・冷蔵コーナーには干物、焼節、みそなど25アイテムを並べた。

「たべねっと」は、小規模生産者から商品を集荷し、店舗販売まで手掛ける取り組み。大王運輸(天白拓治社長、三重県明和町)がスタートさせ、中田商事は1年前から伊賀・名張地区を担当している。県南部の商品は大王運輸のトラックが中田商事まで運び、保管・仕分けのあと、各販売コーナーに配送。スタッフ

は陳列や販売管理まで手掛ける。

中田社長は「山間部の伊賀では、海産物が人気で、

干物などが飛ぶように売れている。逆に、尾鷲市や熊野市では、伊賀産のコメや野菜が重宝される。海のもの

を山へ、山のものを海へ届けるのは、恐らく、大昔から存在する物流の原点ではないか」と強調。

その上で、「手数料方式はハチミツなど39アイテムを並べる

で物量もまだ少ないため、利益が出るまでには至っていないが、地域貢献の一環

として、慌てずじっくりやっていく。生産者など関係先とのつながりも深まって

いるので、今後の展開に生かしたい」と話している。

(星野誠)

